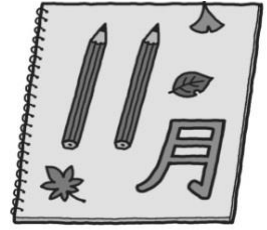


# ともしび

2014



柿くへば

あかく染まりし

電波塔

博

夕やけが、とてもきれいなこの季節。秋の夕日に照らされて、紅葉も柿もあかく色づいています。

柿といえば、正岡子規の大変有名な俳句を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。

「柿くへば 鐘が鳴るなり 法隆寺」

柿を食べながら一休みする、穏やかな秋の響きが感じられます。

さて、この柿という果物、「柿が赤くなれば、医者が青くなる」と言われるほど栄養価が高いことが知られています。昔から人も動物たちも、柿を食べて寒い冬に備えていたことでしょう。

最近、一部の若者の間では俳句が流行っているそうです。私も、柿を食べながら一句、清々しい秋の瞬間を切り取って見ようと思います。

〈日比 博英〉

# ともしび法話



## 【演題】

### 挨拶でつながる



私たちは言葉を介して毎日多くの「他者」と関わって生きていますが、一日の会話の中で最も多く使われる言葉は何だろうかと私はしばしば考えることがあります。

これが中々難問で未だに答えが見つかりません。ただ一日の初めと終わりに最も多く使われる言葉については自信を持って解答できます。それは「おはよう」と「おやすみ」という「挨拶」であろうと思うのです。

恥ずかしながら、私は小さい頃から物ぐさな性分で、「挨拶はしっかりしなさい」と家や学校で度々注意されたものでした。そんな時、私は生返事をしながら、その実、内心ではこう思っておりました。「挨拶なんて別にいいじゃん、重要な内容でもないんだしさ…」と。

高校を卒業して地元を離れた私は、それまで以上に人と関わる機会が多くなりました。私は多くの人との関わり合いを通して、面識のない人と会話する時や、大事な本題に入る前に、ほんの少しでも挨拶を挟む事で、随分場の雰囲気や和らぐことを身をもって知ったのでした。

ところで「挨拶」とは、元は禅の言葉で「問答でお互

いの禅の力量を測る事」を指し、互いの人格を賭けた対話という強い意味で用いられていました。一方、今日私たちが交わす挨拶は、特別な主張は込められず、受ける側も負担は感じません。「人と人が関わる時に交わされる」という点では禅の挨拶と同じですが、強い主張を含まない分、より誰とでも気軽にやり取りできるのが今の私たちの挨拶です。

そんな挨拶ですが、人に挨拶をしても返事が返ってこなかった経験はきつと誰にでもあろうかと思えます。そこで「あれっ？」と拍子抜けする人もいるでしょうし、あるいは腹を立てる人もいるかもしれません。どうして相手から応答が無いと、人はこんなにも落ち着かなくなるのでしょうか。

それはきつと人は誰しも、自分という存在を他者に認めて貰いたいという欲求があるからだと思えます。人は他者との関わりを通して自分の存在を確認するものです。だから返事がないと不安になるし、また人の存在を認めない、いないかのように扱う無

視がイジメとして酷く人の心を傷つけるのです。

仏教では「慈悲」といって、他者を思いやる優しい気持ちを大切にします。

この慈悲の心を行動に移す時、その第一歩は、「相手という存在を認めること」ではないかと私は思っております。相手の「存在」を認めるといことは、つまり相手と「関わる」ということに他なりません。関わって相手自身に自らの存在を確認させることが、実はすでに一つの慈悲の行いになっているのです。

繰り返しになりますが、人は他者と関わることで、初めて自分の存在を確認し、そして安心します。

「おはよう」「こんにちは」「おやすみ」。私たちの日常の中の、たわいなく、ありふれた人と人との挨拶の光景。しかし少し見方を変えれば、家で、学校で、職場で、街角で、日常のあちこちで、私たちはこの気軽な「挨拶」を通し、お互いの存在を認め合っているのです。それもお互い意識することなく。そこが素敵だなあ、私は思うのです。

〈佐田 陸道〉



私の

ふるさと



第二十四回

千畳敷カールせんじょうじき

## 穏やかなカールとそびえ立つほうけんだけ宝剣岳

今月ご紹介するのは、長野県こまがね駒ヶ根市にある千畳敷カールです。

カールとは、約二万年前の氷河期に氷河が山肌を侵食し、氷河が溶けた後、スプーンでえぐったようになった地形のことです。そして駒ヶ根市にあるカールは、千枚の畳を敷けるほど広いことから、千畳敷カールと名付けられました。

現地は標高約二千六百メートル。ロープウエーで移動した後、カール内の平地ではのんびり散策できるようになっています。また、奥に見える宝剣岳ほうけんだけにも登っていくことができますが、急な斜面に加えて荒い岩場なので、一步一步着実に進むことが大切です。

去年の夏、私はカール内の散策と登山に行ってきました。山からの美しい眺めや澄んだ空気、たくさん自然などを満喫できて大満足な一日でした。ちなみに、帰りのロープウエーは混雑で二時間待ちになりましたが、それもまたいい思い出です。

〈坂田 祐真〉  
さかた ゆうしん

〒105-8544 東京都 港区 芝 2-5-2 曹洞宗宗務庁内  
曹洞宗総合研究センター 教化研修部門 一般教化課程  
ともしび法話会

TEL 03-3454-6844 FAX 03-3454-7180

2014(平成26)年 11月1日発行 第389号